

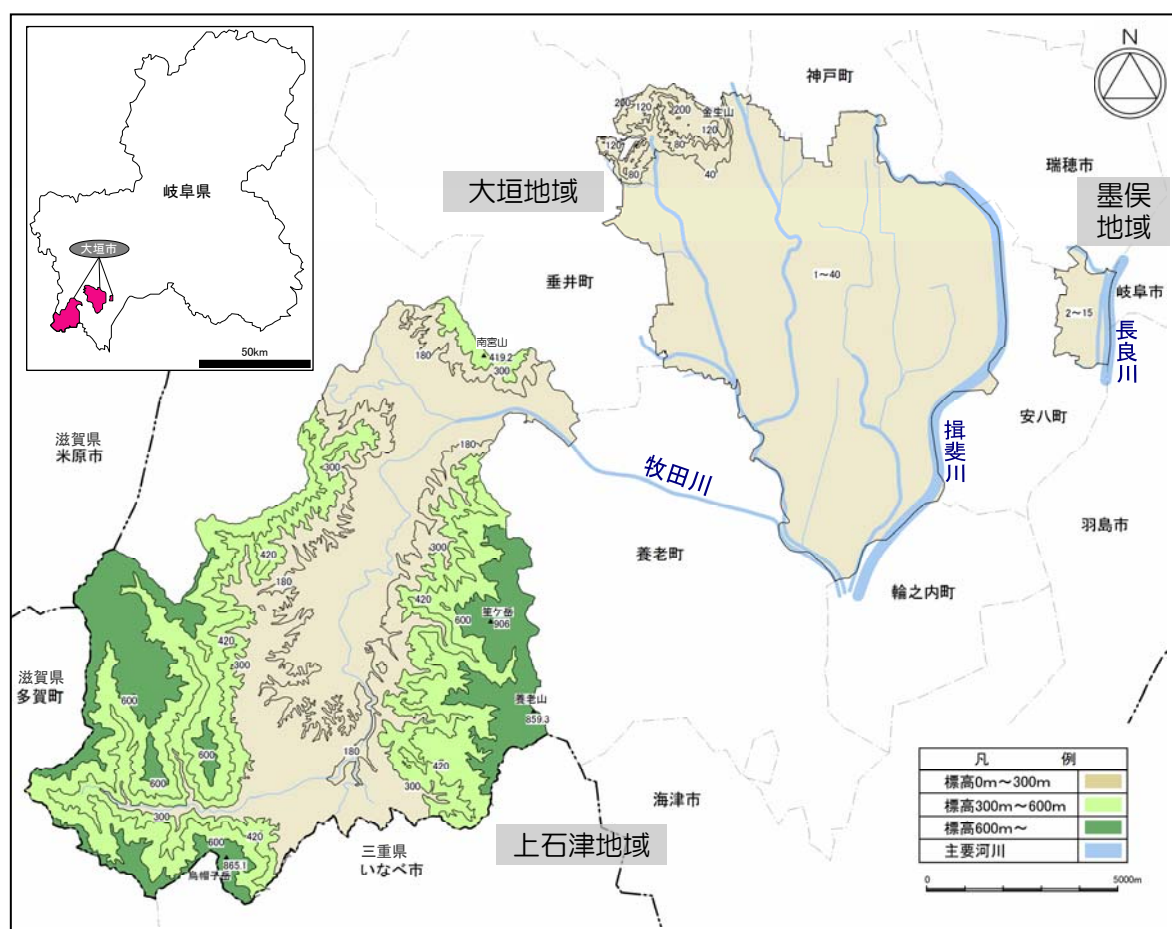
第2章 現況調査

2-1 地形の特性

○面積：206.52 km²です。平成18年の合併により二重飛び地になっており、東に墨俣地域、南西に上石津地域が位置しています。

○大垣及び墨俣地域：岐阜県内三大河川である揖斐川・長良川に隣接し、多くの河川が網目状に流れる水郷地帯となっています。また自噴帯に位置していることから、古くから「水の都」と呼ばれています。大垣地域の北西部の一部を除いたほぼ全域が海拔3～6メートルの平坦な低地です。

○上石津地域：標高800メートル前後の山に囲まれ、中央を牧田川が南北に流れる「みどり」豊かな里地里山地域です。



出典：国土地理院

2-2 水に関わる環境の特性

○河川・ため池

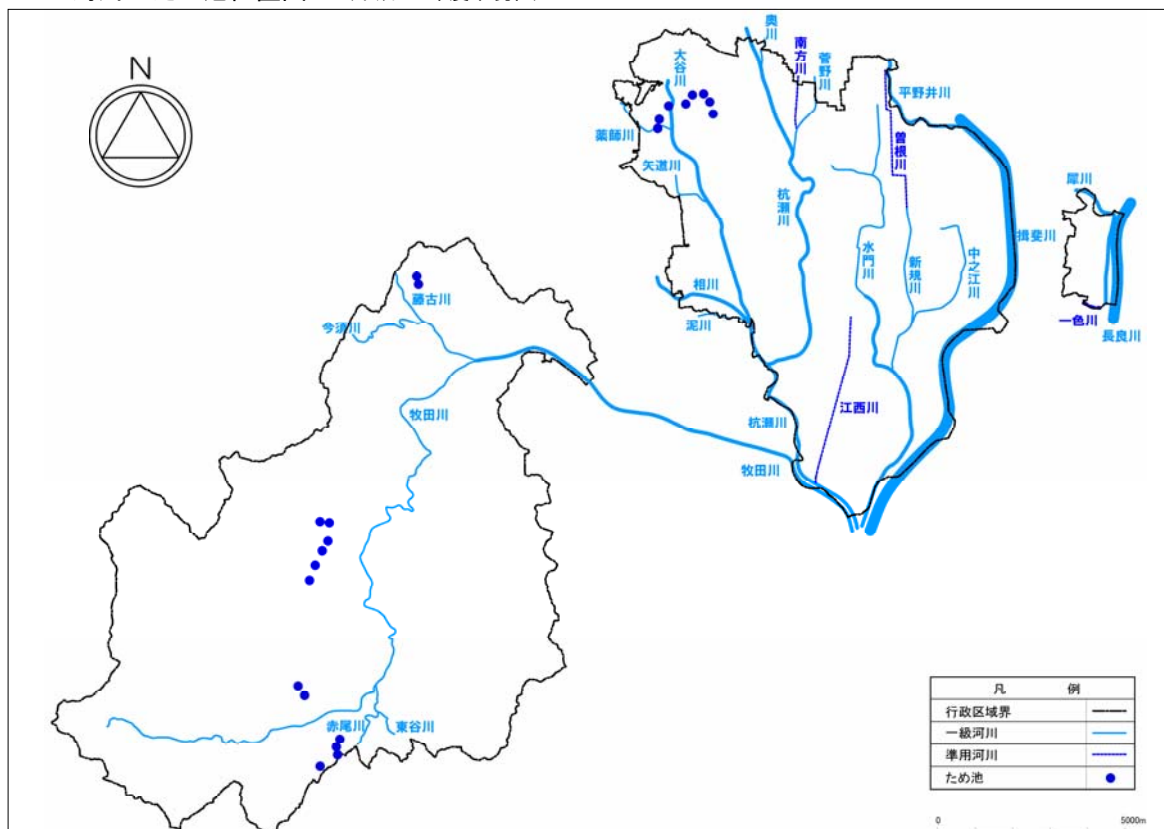
：長良川、揖斐川とその支流である牧田川、犀川、相川、平野井川が市域の外周を流れ、市街地内を杭瀬川、水門川、中之江川などが貫流し、ため池は、大垣地域北西部と上石津地域に多く点在しています。

○輪中堤：大垣地域や墨俣地域では、古くから**集落や耕地を洪水から守ることを目的とし周囲に堤防（輪中堤）が築造**されていました。河川堤防を除くこれらの輪中堤は、取り壊されたり削り下げられたりした箇所が多いものの、現在でも市域内に残されています。

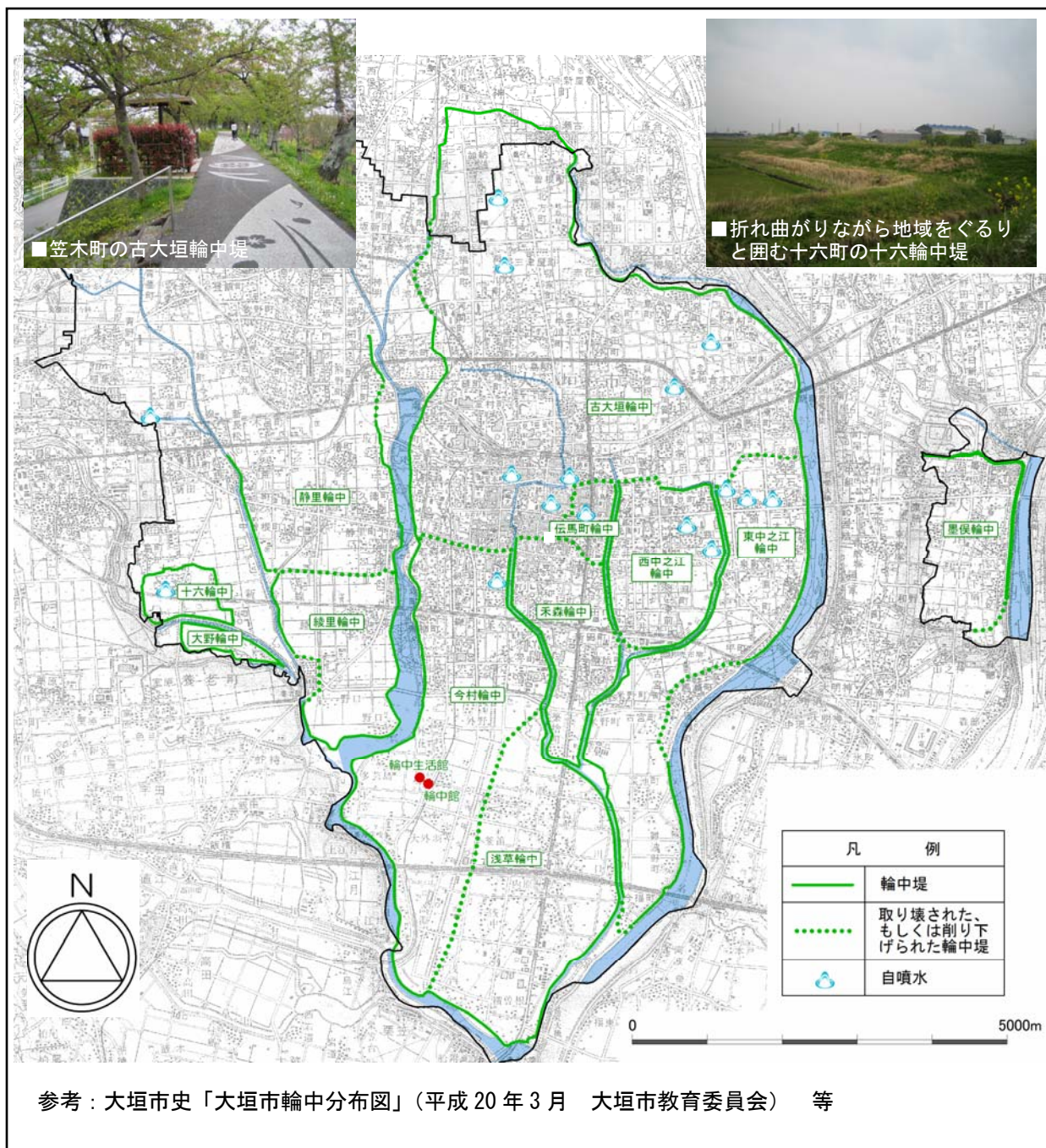
○自噴水：大垣地域は、**全国でも有数の自噴帯**に位置しており、この地域北部では「ガマ」と呼ばれる本市扇状地の末端にみられる自然湧水が、輪中内の用水としてかつて利用されていました。また、掘り抜き井戸に代表される「自噴井戸」は生活用水として利用されていました。

○水 運：鉄道が発達するまで、**水門川や杭瀬川などの河川を利用した水運は、名古屋・桑名と大垣城下を結ぶ重要な交通路**であり、今も歴史を伝える港跡が残っています。

■河川・ため池位置図 （平成19年度末現在）



■輪中の分布



■自噴井「名水大手いこ井の泉」



■赤坂港跡



2-3 緑被の状況

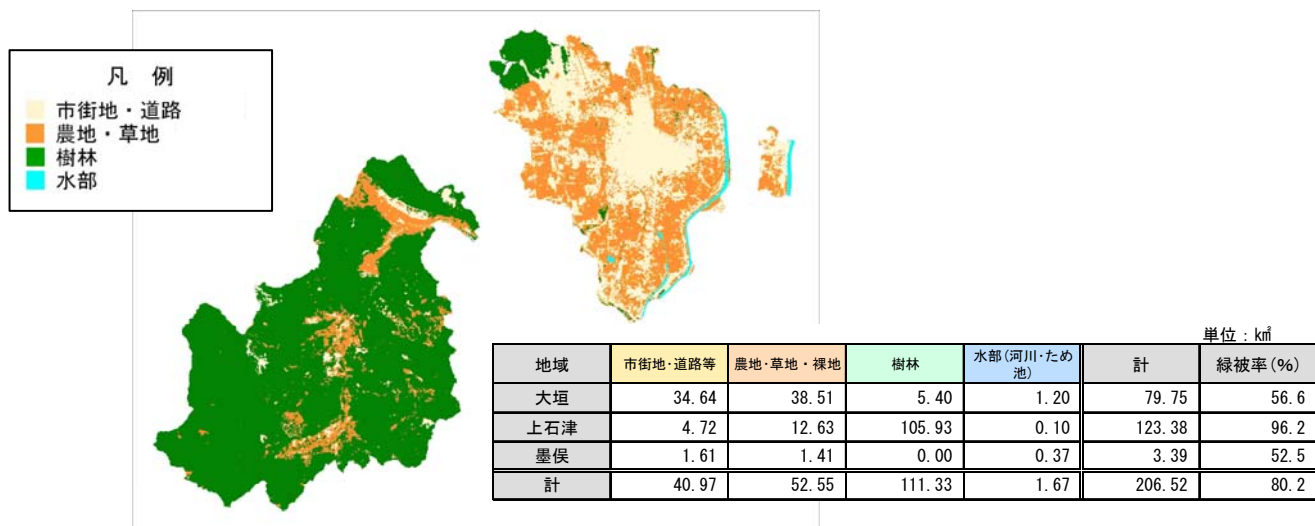
緑被や土地利用と温度との関係について、(財)リモート・センシング技術センターによるランドサットデータ※^{1,2}の本市周辺データを活用し調査解析を行った結果は以下のとおりです。(昭和60年7月16日10:00頃、及び平成18年8月11日10:20頃に記録されたランドサットTMデータ※²により解析)

1. 緑被の推移

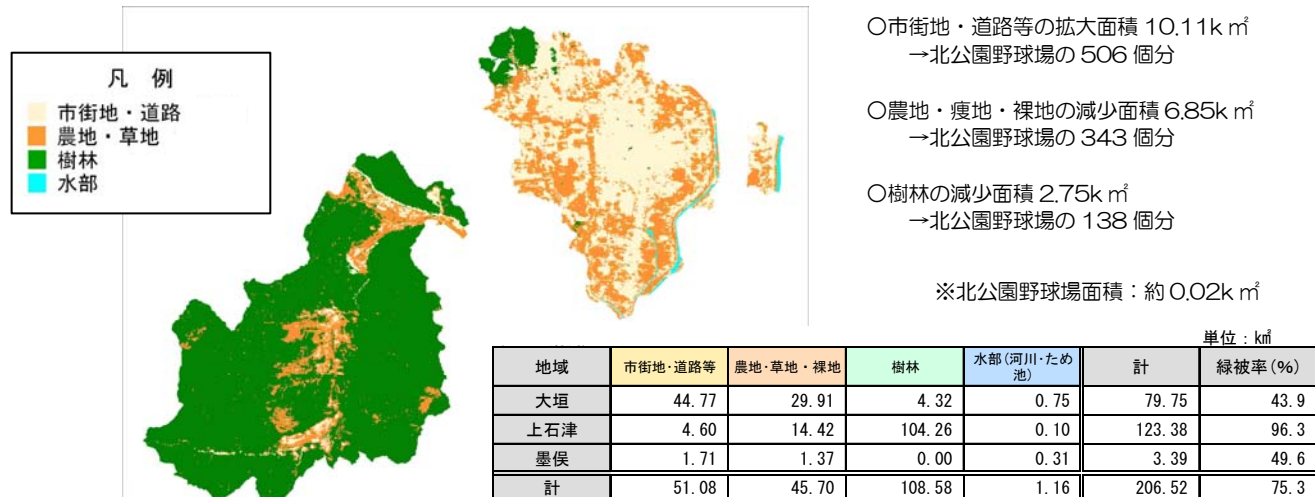
○大垣地域・墨俣地域では、市街地の拡大により緑被量は20年前に比べて減少しています。

○上石津地域では、昭和60年当時伐採跡地であった箇所における植林の成長により、樹林面積は増加しています。

(ランドサットデータ 昭和60年7月)



(ランドサットデータ 平成18年8月)



2. 地表面の温度分布

○昭和 60 年時に比べて平成 18 年のデータの解析※¹では、調査日の地表面の高温域の分布区域が大きく拡大しています。この変化の要因としては、市街地の拡大と市街地内の緑被量の減少が考えられます。

○市街地周辺において一団の農地・樹林地では、市街地より 2～3 度程度、気温が低くなっています。また、山間の樹林帯においては、標高が高いほど気温は低くなっています。（一般的には 100m 毎に 0.6 度低くなる）

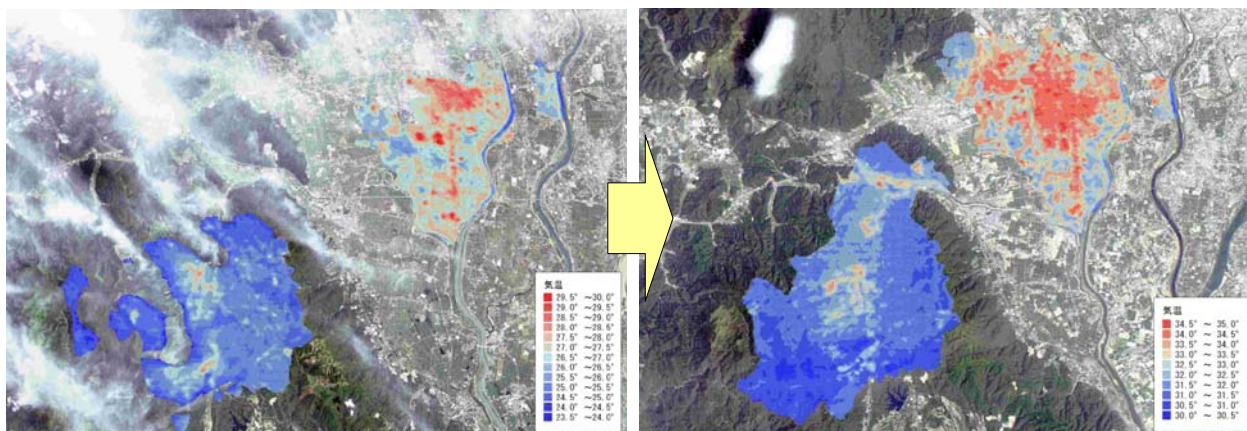
※1：昭和 60 年 7 月 16 日 10:00 頃、及び平成 18 年 8 月 11 日 10:20 頃に記録されたランドサット TM データ※²により解析した温度分布図

※2：ランドサット TM データは、Band1～Band7 までの 7 つの波長帯を観測するセンサーを持っています。その内、Band6 は熱赤外域である 10.4～12.5 μ m の波長をとらえます。地表面の温度は熱赤外線として大気中に放射されているため、この Band の記録強度と地表面温度との関係を把握することで、任意の位置における地表面の温度を知ることが可能となります。

■温度分布図※³（ランドサットデータ取り出し）

（昭和 60 年 7 月 16 日 10:00 頃 記録）

（平成 18 年 8 月 11 日 10:20 頃 記録）



※3：この2枚の写真は、撮影日付、撮影時間及び気象状況等が異なっていることと、一部、市域内に雲がかかっており、正確な数値としては計測できていないことから、単純に比較できるものではありませんが、市域内での温度分布の状況について、その変化をみるデータとして使用しています。

2-4 動・植物相の特性

【大垣・墨俣地域】

●河川環境を中心に動物が生息

○水 鳥： 水門川下流の**広芝の池**周辺、犀川と五六川の合流部付近、杭瀬川や揖斐川に多く生息しています。大垣地域南部の養老大橋東側の揖斐川とその河川敷から養老町の牧田川との合流点付近まで**鳥獣保護区**に指定されています。

○淡水魚： 岐阜県西南濃地方と滋賀県東北部にのみ生息する希少魚であり、清流にしか棲むことができない**ハリヨ**（県指定天然記念物）が生息しており、自噴水の保全とともにハリヨの保護活動が行われています。また、国の天然記念物に指定されている日本固有の淡水魚（全4種）であるイタセンパラ※をはじめとした、多くの淡水魚が生息しています。

○昆 虫： 杭瀬川などの**ゲンジボタル**、**ヘイケボタル**は、水質の変化や水路の改良などにより年々減少傾向ですが、近年のホタル保護育成活動や環境改善から生息地が少しずつ広がってきています。本市北西部の金生山には**陸貝**（県指定天然記念物）と**ヒメボタル**（市指定天然記念物）が生息しています。

○哺乳動物： 本市北西部に**ニホンジカ**、**イノシシ**、西部に**タヌキ**、**アナグマ**が生息しています。また、特に杭瀬川等の自然と人の営みが混在する区域では**キツネ**の生息がみられ、河川敷は貴重な移動経路となっています。

※ 国の調査では市内での生息は確認されませんでしたが、漁業関係者によると数年に1回程の捕獲があるようです。

●大垣地域北西部に残る樹林地

○植 生： 大きな河川に挟まれた大垣・墨俣地域では平野地が大部分を占めており、揖斐関ヶ原養老国定公園及び伊吹県立自然公園に指定されている大垣地域北西部が唯一のまとまった樹林地となっています。これらのほとんどが**スギ・ヒノキ**等の樹林地と**クヌギ・コナラ**等の二次林で占められています。

●大垣地域に残る貴重な樹木

○天然記念物： 大垣地域では**トネリコ**が市の天然記念物に指定されています。

【上石津地域】

●豊かな動物生息環境の山間地域

○森林部： **カモシカ**、**エゾミドリシジミ**、**キリシマミドリシジミ**（市指定天然記念物）、**ヒサマツミドリシジミ**（市指定天然記念物）

○牧田川をはじめとする河川： **カジカガエル**、**ヘイケボタル**、**ゲンジボタル**
ネコギギ(国指定天然記念物)

●多くの天然記念物が残る樹林地域

○植 生： 地域の 9 割を占める樹林地の一部は揖斐関ヶ原養老国定公園に指定されており、**ナラ**や**カエデ**の自然林が広がっています。

○天然記念物： 一之瀬の山間部には国指定天然記念物である**ホンシャクナゲ**が自生しています。また自然豊かなこの地域では、県指定天然記念物である一之瀬の**サンシュユ**、唯願寺の**シブナシガヤ**、湯葉神社の**スギ**、市指定天然記念物の本善寺の**カゴノキ**、明覚寺の**イヌマキ**、上多良の**シイ**、足谷の**コウヤマキ**、下多良の**カヤ**、延坂の**カツラ**等が点在しています。

【大垣市内に生息する絶滅危惧種】

（岐阜県レッドデータブック 2001 より）

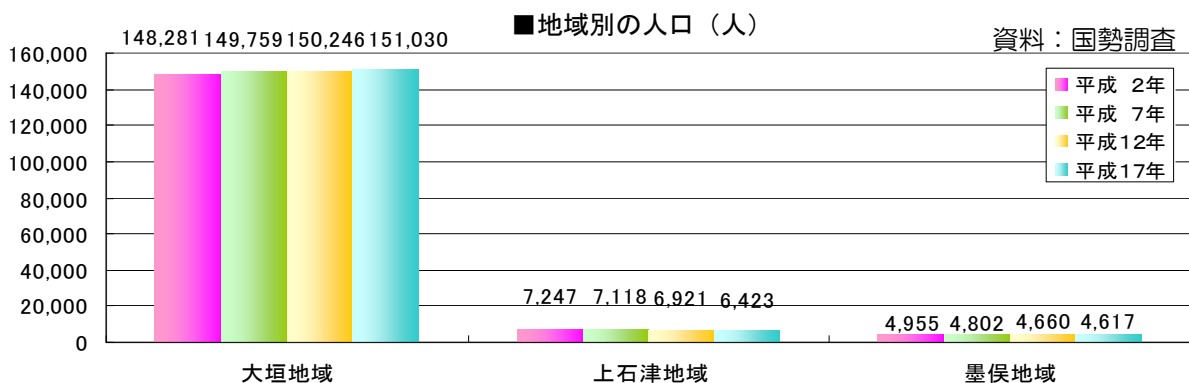


※岐阜県レッドデータブック 2001 に記載されていますが、平成 20 年末現在生息が確認されていないものもあります。

2-5 社会環境の特性

1. 人口の推移

- 人口は昭和 60 年から**微増傾向**が続き、平成 17 年現在で 162,070 人です。
- 総世帯数は、昭和 60 年以降年々増加傾向で、一世帯当たりの人口を算定すると平均 2.86 人です（平成 17 年度）。
- 地域別の人口は、大垣地域で増加、上石津地域、墨俣地域で減少しています。
- 在住外国人の割合が比較的高く**約 7,100 人で、全人口の約 4%を占めます（平成 18 年度）。国籍別では、全体の約 7 割がブラジルをはじめとする南米国です。
- 就業人口は、第三次産業は増加、第一次産業と第二次産業は減少しています。



2. 土地利用の状況

- 土地利用は、地目別では山林が 20%で最も多く、次いで農用地（田・畑）16%、住宅用地 12%となっています（平成 18 年度）。
※前回計画数値：大垣地域（山林 6%、農用地 36%、住宅用地 15%）、墨俣地域（山林 0.4%、農用地 40.9%、住宅用地 12.1%）、上石津地域なし
- 大垣地域、墨俣地域の全域に都市計画区域(8,314ha)が指定され、上石津地域は都市計画区域の指定はありません。
※前回計画数値との変化なし：大垣地域 7,975ha、墨俣地域 339ha、上石津地域なし
- 人口集中地区は、大垣地域に 1 箇所、20.9 k m²が設定されています（平成 17 年度）。上石津地域と墨俣地域では人口集中地区の設定はありません。
※前回計画数値：大垣地域 20.5 k m²（平成 7 年度）、墨俣地域なし、上石津地域なし

3. 産業構造

- 事務所数は「卸売・小売業」が約 27%、「サービス業」が約 20%、以下「製造業」、「飲食店・宿泊業」の順となっています（平成 18 年度）。
- 従業者数は「製造業」が約 24%と最も多く、以下「卸売・小売業」、「サービス業」の順となっています（平成 18 年度）。

4. 都市施設・教育施設等

○道路：平成 17 年度までに 40 路線、約 130km の都市計画道路が計画決定されています。整備進捗率は 63%です(平成 19 年 3 月基礎調査)。

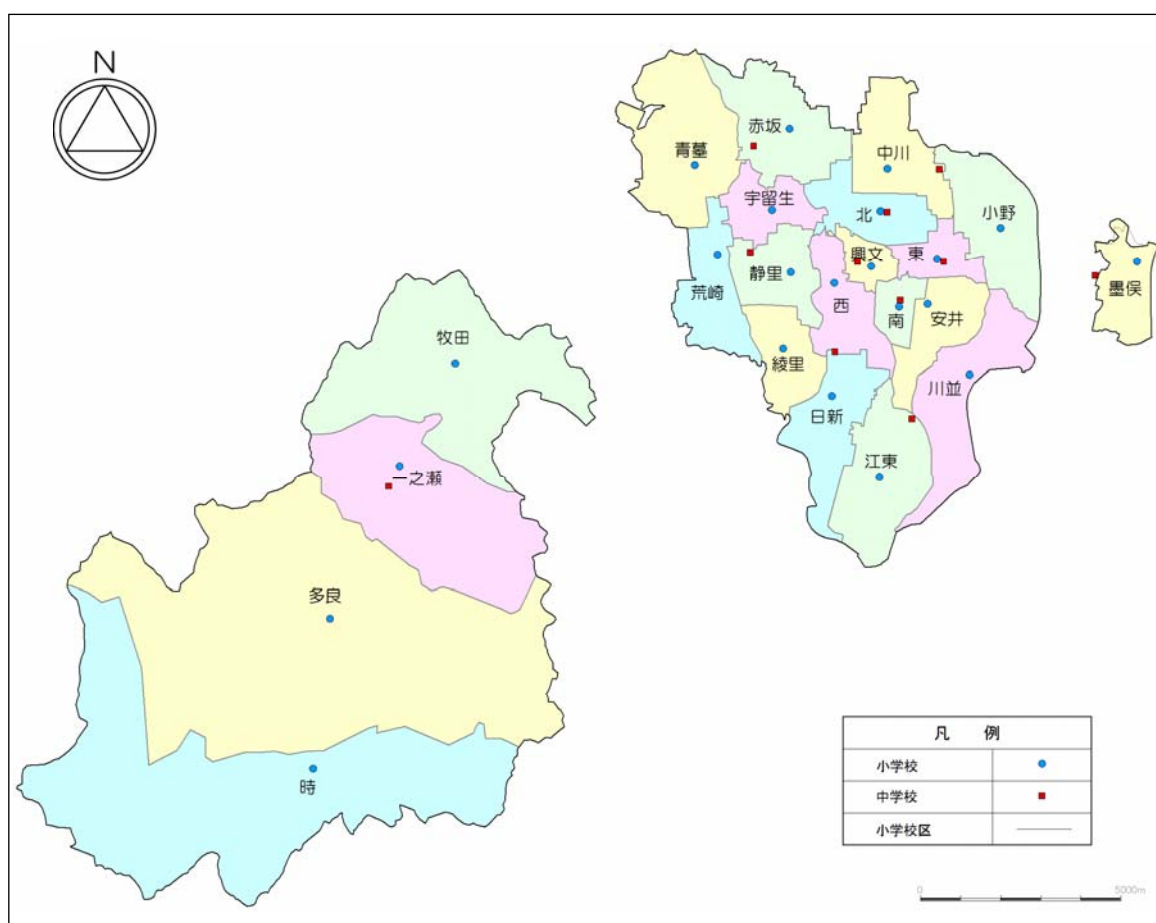
○下水道普及率：下水道普及率（污水处理）は平成 19 年度末で 76.8%です。

○鉄道：JR 東海、養老鉄道、樽見鉄道の 3 路線があります。平成 8～16 年の間の乗車人員の推移をみると、全路線とも微減傾向です（平成 19 年 3 月基礎調査）。

○公共公益施設：市役所本庁舎は大垣地域、地域事務所は上石津地域と墨俣地域に配置されており、その他の学校・幼稚園・保育園・福祉施設・観光施設・交流施設・公安施設といった公共公益施設は地域内の各小学校区単位で配置されています（平成 19 年 3 月基礎調査）。

○教育施設：大学・短期大学 3 校、高等学校 8 校、中学校 10 校、小学校 22 校、幼稚園・保育園等 49 園、その他施設 16 箇所があります。

■小学校区単位と小中学校の位置（平成 19 年度末現在）



5. 歴史・文化財

○本市は、かつて**美濃路、鎌倉街道、伊勢街道、中山道（東山道）**などが通っており、街道沿いを主に今も**多くの歴史的遺産、資源**が存在しています。

○大垣地域には、国指定史跡の**史跡美濃国分寺跡、史跡昼飯大塚古墳**をはじめとして、県指定史跡の**住吉燈台、お茶屋屋敷跡**、市指定史跡の**大垣城跡、奥の細道むすびの地**など、歴史資産が多くあります。これらは「みどり」豊かな環境に恵まれたものが多く、既に都市公園として整備されているものもあります。

○市指定の史跡である**赤坂港跡**は、中山道沿いにあり、大正時代まで水運交通の要衝として栄え、現在では跡地に隣接して広場が整備されています。同様に、市の史跡である**船町港跡**は内陸港として市街地中心部の水門川にあり、住吉燈台が残っています。

○輪中地帯における特徴的な**水屋建築**（水害から人身、家財を守るための輪中内における個人的な避難場所）は、治水事業の進行によりかなり減少していますが、釜笛地区には水屋群が残る貴重な地域であり、平成15年に文化庁の「文化的景観重要地域」に選定されています。また輪中で暮らす人々の「村のすまい、村の生活」を紹介する施設として輪中生活館があります。

○上石津地域における歴史文化財として、**唯願寺のシブナシガヤ、湯葉神社のスギ**（県指定天然記念物）など多くの樹木等や、**旗本西高木家陣屋跡**（県指定史跡）などがあります。

○墨俣地域における歴史文化財として**墨俣一夜城址**（市指定史跡）などがあります。

■史跡美濃国分寺跡



■大垣城跡



■史跡昼飯大塚古墳



■墨俣一夜城址(公園整備前)



6. 災害関連状況

○大垣・墨俣地域は過去に洪水による被害が多かった地域であり、現在、地震や水害などの災害発生時の避難場所として 120 箇所、広域避難場所として 13 箇所が指定されています。

○市街地内では、一部に木造家屋密集地が残っているため、強風時等特殊な条件下では大規模な火災の発生が予想されます。また、上石津地域では消火活動が困難な山火事や土砂災害の発生が予想されています。

○本市の平地部の大部分は地震に弱い軟弱地盤で形成されており、強化地域に準じた対策が必要です。特に東海地震発生時では、本市の被害は最大で震度5弱から5強(平成14年5月公表の県被害想定調査)と想定されています。

○揖斐川右岸には揖斐川上流域における災害時の復旧活動の拠点、平常時の防災学習・地域の交流の場としての活用も可能となる河川防災ステーションの整備が進められています。

■指定避難地(地域防災計画) (平成20年9月現在)

■広域避難場所一覧

番号	施設名
1	杭瀬川公園
2	西公園
3	大垣公園
4	大垣競輪場駐車場
5	三城公園
6	赤坂スポーツ公園
7	北公園
8	南公園運動場
9	南一色公園
10	イオン大垣ショッピングセンター駐車場
11	アクアウォーク大垣駐車場
12	平和堂アル・プラザ錦見駐車場
13	PLANT6 駐車場

